

CO-1.1
必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	MetS発症率近似値	
把握したい概念	MetS等発症率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施	
指標概要 定義	ウエスト周囲径[男性 ≥ 85 cm、女性 ≥ 90 cm] and [①[低HDLコレステロール < 40 mg/dl未満 or 高脂血症治療薬服用]、② [SBP ≥ 130 mmHg and/or DBP ≥ 85 mmHg or 降圧薬服用]、③ [HbA1c $\geq 5.6\%$ or 糖尿病薬物治療] …3項目のうち2つ以上]and[医師からMS等といわれたことがないor初めてMS等の治療を受けたのが過去3年以内]	
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該検査・調査受診者
	分子	当該検査受診者において、上記定義を満たす者(30-64歳)
	分母のデータ源	同上
	分母	30~64歳の男性・女性
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	B. メタボリックシンドローム(MetS)予備群(境界領域期)
	指標種類	最終的な成果(アウトカム)
	目的	①説明責任、比較用
	義務化(推奨される調査の頻度)	必ず把握すべき概念に対する指標であり義務的公表指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法		糖尿病実態調査の「糖尿病」を「MetS等」に変更する上で、都道府県としての独自調査における把握
留意事項 (上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)		

CO-1.2

必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	糖尿病発症率近似値	
把握したい概念	MetS等発症率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1—5年間隔で実施	
指標概要	定義	「[糖尿病が強く疑われる]:HbA1c \geq 6.1 またはインスリン、血糖降下薬服用者]and[医師から糖尿病といわれたことがないor初めて糖尿病の治療を受けたのが過去3年以内]
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該検査受診者
	分子	当該検査受診者において、上記定義を満たす者(30-64歳)
	分母のデータ源	同上
	分母	30～64歳の男性・女性
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30—64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	B. メタボリックシンドローム(MetS)予備群(境界領域期)
	指標種類	最終的な成果(アウトカム)
	目的	①説明責任、比較用
	義務化(推奨される調査の頻度)	必ず把握すべき概念に対する指標であり義務的公表指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法		都道府県としての独自調査における現行の国民健康・栄養調査方式による把握
留意事項	(上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	

CO-1.3

必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	高血圧症発症率近似値	
把握したい概念	MetS等発症率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施	
指標概要 定義	[国民健康・栄養調査における方法(水銀血圧計による2回測定)により血圧測定を行い、SBP \geq 140 mmHgまたはDBP \geq 90mmHgであるか、または問診により降圧薬を服用している者の割合]and[医師から高血圧といわれたことがないor初めて高血圧の治療を受けたのが過去3年以内]	
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該検査・調査受診者
	分子	当該検査受診者において、上記定義を満たす者(30-64歳)
	分母のデータ源	同上
	分母	30~64歳の人口
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	B. メタボリックシンドローム(MetS)予備群(境界領域期)
	指標種類	最終的な成果(アウトカム)
	目的	①説明責任、比較用
	義務化(推奨される調査の頻度)	必ず把握すべき概念に対する指標であり義務的公表指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法	都道府県としての独自調査における現行の国民健康・栄養調査方式による把握	
留意事項 (上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)		

CO-1.4

必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	MetS有病率	
把握したい概念	MetS等発症率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施	
指標概要	定義	ウェスト周囲径[男性 $\geq 85\text{cm}$ 、女性 $\geq 90\text{cm}$] and [①[低HDLコレステロール $< 40\text{mg/dl}$ 未満 or 高脂血症治療薬服用]、② [SBP $\geq 130\text{mmHg}$ and/or DBP $\geq 85\text{mmHg}$ or 降圧薬服用]、③ [HbA1c $\geq 5.6\%$ or 糖尿病薬物治療] …3項目のうち2つ以上]
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該検査・調査受診者
	分子	当該検査受診者において、上記定義を満たす者
	分母のデータ源	同上
	分母	30~64歳男性・女性、(65~74歳男性・女性)
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	B. メタボリックシンドローム(MetS)予備群(境界領域期)
	指標種類	最終的な成果(アウトカム)
	目的	①説明責任、比較用
	義務化(推奨される調査の頻度)	必ず把握すべき概念に対する指標であり義務的公表指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法	都道府県としての独自調査における現行の国民健康・栄養調査方式による把握	
留意事項	(上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	

コメント
削除してよろしいか？

CO-1.5

必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	糖尿病有病率	
把握したい概念	MetS等発症率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施	
指標概要	定義	「糖尿病が強く疑われる」:HbA1c \geq 6.1 またはインスリン、血糖降下薬服用者
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該検査・調査受診者
	分子	当該検査及び調査受診者において、「HbA1c \geq 6.1 またはインスリン、血糖降下薬服用者」
	分母のデータ源	同上
	分母	30～64歳男性・女性
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	B. メタボリックシンドローム(MetS)予備群(境界領域期)
	指標種類	最終的な成果(アウトカム)
	目的	①説明責任、比較用
	義務化(推奨される調査の頻度)	必ず把握すべき概念に対する指標であり義務的公表指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法		都道府県としての独自調査における現行の国民健康・栄養調査方式による把握
留意事項	(上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	

指標名	高血圧症有病率	
把握したい概念	MetS等発症率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 国民健康・栄養調査では毎年	
指標概要	定義	国民健康・栄養調査における方法(水銀血圧計による2回測定)により血圧測定を行い、SBP \geq 140 mmHgまたはDBP \geq 90mmHgであるか、または問診により降圧薬を服用している者の割合
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該検査・調査受診者
	分子	当該検査及び調査受診者において、SBP \geq 140 or DBP \geq 90 or 降圧薬服用の者
	分母のデータ源	同上
	分母	30～64歳男性・女性
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30—64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	B. メタボリックシンドローム(MetS)予備群(境界領域期)
	指標種類	最終的な成果(アウトカム)
	目的	①説明責任、比較用
	義務化(推奨される調査の頻度)	必ず把握すべき概念に対する指標であり義務的公表指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法	都道府県としての独自調査における現行の国民健康・栄養調査方式による把握	
留意事項	(上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	

CO参考
必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	高血圧総患者数	
把握したい概念	MetS等発症率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 国民健康・栄養調査では毎年	
指標概要	定義	患者調査の総患者数における本態性(原発性)高血圧(症)
算出方法	分子のデータ源	患者調査
	分子	本態性(原発性)高血圧(症)の総患者数
	分母のデータ源	総務省推計
	分母	人口
標準化	必要性	必要
	その方法	間接法
位置づけ	生活習慣病の発展段階	C. メタボリックシンドローム(MetS)
	指標種類	最終的な成果(アウトカム)
	目的	①説明責任、比較用
	義務化(推奨される調査の頻度)	義務化 少なくとも3年に1度
留意事項	(上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	

CP-1.1

必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名		保健指導実施率(MetS)
把握したい概念		MetS等予備群の保健指導利用率
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)		①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施
指標概要	定義	自記式質問票(←平成13年国民生活基礎調査における補問11-3参照)において「はい」と回答した者
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該調査実施者
	分子	当該調査受診者のうち、質問紙調査により、「食事や生活習慣の改善の指導を受けた」と回答した者
	分母のデータ源	同上
	分母	「CO-1.4 MetS有病率」における該当者(30~64歳男性・女性)
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	C. メタボリックシンドローム(MetS)
	指標種類	サービス提供実績(プロセス)
	目的	①説明責任、比較用
	義務化(推奨される調査の頻度)	必ず把握すべき概念に対する指標であり義務的公表指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法		都道府県としての独自調査における把握
留意事項	(上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	具体的成果として体重減少量の把握を検討

※平成13年国民生活基礎調査(健康票)
 補問11-1「あなたは健康診断の結果、糖尿病に関すること(「血糖値が高い」、「尿糖が陽性」、「糖尿病の疑いがある」など)をいわれましたか。(はいの方については、補問11-2、補問11-3のそれぞれについてお答えください。)
 1 はい 2 いいえ
 ↓
 補問11-2 医療機関を受診するように指導されましたか
 1 はい 2 いいえ
 ↓
 その後、医療機関に行きましたか。
 1 行った 2 行かない
 補問11-3 食事や生活習慣の改善の指導を受けましたか。(医療機関受診者を含む。)
 1 はい 2 いいえ
 ↓
 指導された内容についてどの程度実行していますか。
 1 おおむね実行している 2 一部実行している 3 実行していない

CP-1.2

必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	保健指導実施率(肥満)	
把握したい概念	MetS等予備群の保健指導利用率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施	
指標概要	定義	自記式質問票(←平成13年国民生活基礎調査における補問11-3参照)において「はい」と回答した者
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該調査実施者
	分子	当該調査受診者のうち、質問紙調査により、「食事や生活習慣の改善の指導を受けた」と回答した者
	分母のデータ源	同上
	分母	「BO-1.1 肥満者の率(成人)」における該当者(30~64歳男性・女性)
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	C. メタボリックシンドローム(MetS)
	指標種類	サービス提供実績(プロセス)
	目的	②分析用
	義務化(推奨される調査の頻度)	分析指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法	都道府県としての独自調査における現行の国民健康・栄養調査方式による把握	
留意事項 (上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	具体的成果として体重減少量の把握を検討	

※平成13年国民生活基礎調査(健康票)

補問11-1「あなたは健康診断の結果、糖尿病に関すること(「血糖値が高い」、「尿糖が陽性」、「糖尿病の疑いがある」などをいわれましたか。(はいの方については、補問11-2、補問11-3のそれぞれについてお答えください。)

1 はい 2 いいえ

↓

補問11-2 医療機関を受診するように指導されましたか

1 はい 2 いいえ

↓

その後、医療機関に行きましたか。

1 行った 2 行かない

補問11-3 食事や生活習慣の改善の指導を受けましたか。(医療機関受診者を含む。)

1 はい 2 いいえ

↓

指導された内容についてどの程度実行していますか。

1 おおむね実行している 2 一部実行している 3 実行していない

指標名	保健指導実施率(糖尿病予備群)	
把握したい概念	MetS等予備群の保健指導利用率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施	
指標概要	定義	自記式質問票(←平成13年国民生活基礎調査における補問11-3参照)において「はい」と回答した者
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該調査実施者
	分子	当該調査受診者のうち、質問紙調査により、「食事や生活習慣の改善の指導を受けた」と回答した者
	分母のデータ源	同上
	分母	「BO-1.4 糖尿病有病者・予備群の率」における「糖尿病予備群」該当者(30~64歳男性・女性)
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	C. メタボリックシンドローム(MetS)
	指標種類	サービス提供実績(プロセス)
	目的	②分析用
	義務化(推奨される調査の頻度)	分析指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法	都道府県としての独自調査における現行の国民健康・栄養調査方式による把握	
留意事項 (上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)		

※平成13年国民生活基礎調査(健康票)

補問11-1「あなたは健康診断の結果、糖尿病に関すること(「血糖値が高い」、「尿糖が陽性」、「糖尿病の疑いがある」など)をいわれましたか。(はいの方については、補問11-2、補問11-3のそれぞれについてお答えください。)

1 はい 2 いいえ

↓

補問11-2 医療機関を受診するように指導されましたか

1 はい 2 いいえ

↓

その後、医療機関に行きましたか。

1 行った 2 行かない

補問11-3 食事や生活習慣の改善の指導を受けましたか。(医療機関受診者を含む。)

1 はい 2 いいえ

↓

指導された内容についてどの程度実行していますか。

1 おおむね実行している 2 一部実行している 3 実行していない

指標名		保健指導実施率(高血圧予備群)
把握したい概念		MetS等予備群の保健指導利用率
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)		①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施
指標概要	定義	自記式質問票(←平成13年国民生活基礎調査における補問11-3参照)において「はい」と回答した者
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該調査実施者
	分子	当該調査受診者のうち、質問紙調査により、「食事や生活習慣の改善の指導を受けた」と回答した者
	分母のデータ源	同上
	分母	「BO-1.5 高血圧症有病者・予備群の率」における「高血圧予備軍」該当者(30~64歳男性・女性)
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	C. メタボリックシンドローム(MetS)
	指標種類	サービス提供実績(プロセス)
	目的	②分析用
	義務化(推奨される調査の頻度)	分析指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法		都道府県としての独自調査における把握
留意事項	(上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	

※平成13年国民生活基礎調査(健康票)

補問11-1「あなたは健康診断の結果、糖尿病に関すること(「血糖値が高い」、「尿糖が陽性」、「糖尿病の疑いがある」などをいわれましたか。(はいの方については、補問11-2、補問11-3のそれぞれについてお答えください。)

1 はい 2 いいえ



補問11-2 医療機関を受診するように指導されましたか

1 はい 2 いいえ



その後、医療機関に行きましたか。

1 行った 2 行かない

補問11-3 食事や生活習慣の改善の指導を受けましたか。(医療機関受診者を含む。)

1 はい 2 いいえ



指導された内容についてどの程度実行していますか。

1 おおむね実行している 2 一部実行している 3 実行していない

指標名	保健指導実施率(高脂血症)	
把握したい概念	MetS等予備群の保健指導利用率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1—5年間隔で実施	
指標概要	定義	自記式質問票(←平成13年国民生活基礎調査における補問11-3参照)において「はい」と回答した者
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該調査実施者
	分子	当該調査受診者のうち、質問紙調査により、「食事や生活習慣の改善の指導を受けた」と回答した者
	分母のデータ源	同上
	分母	「BO-1.6 高脂血症者の率」(30～64歳男性・女性)
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30—64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	C. メタボリックシンドローム(MetS)
	指標種類	サービス提供実績(プロセス)
	目的	②分析用
	義務化(推奨される調査の頻度)	分析指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法	都道府県としての独自調査における現行の国民健康・栄養調査方式による把握	
留意事項	(上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	

※平成13年国民生活基礎調査(健康票)

補問11-1「あなたは健康診断の結果、糖尿病に関すること(「血糖値が高い」、「尿糖が陽性」、「糖尿病の疑いがある」など)をいわれましたか。(はいの方については、補問11-2、補問11-3のそれぞれについてお答えください。)

1 はい 2 いいえ

↓

補問11-2 医療機関を受診するように指導されましたか

1 はい 2 いいえ

↓

その後、医療機関に行きましたか。

1 行った 2 行かない

補問11-3 食事や生活習慣の改善の指導を受けましたか。(医療機関受診者を含む。)

1 はい 2 いいえ

↓

指導された内容についてどの程度実行していますか。

1 おおむね実行している 2 一部実行している 3 実行していない

CP-2.1

必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名		指導された内容の実行率(MetS)
把握したい概念		効果的な保健指導を受けた割合
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)		①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施
指標概要	定義	自記式質問票(←平成13年国民生活基礎調査における補問11-3参照)において「はい」と回答した者
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該調査実施者
	分子	当該調査受診者のうち、質問紙調査により、「指導された内容をおおむね実行している」と回答した者
	分母のデータ源	同上
	分母	「CP-1.1 保健指導実施率(MetS)」における該当者(30~64歳男性・女性)
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	C. メタボリックシンドローム(MetS)
	指標種類	サービス提供実績(プロセス)
	目的	②分析用
	義務化(推奨される調査の頻度)	分析指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法		都道府県としての独自調査における把握
留意事項	(上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	具体的成果として体重減少量の把握を検討

※平成13年国民生活基礎調査(健康票)

補問11-1 「あなたは健康診断の結果、糖尿病に関すること(「血糖値が高い」、「尿糖が陽性」、「糖尿病の疑いがある」などをいわれましたか。(はいの方については、補問11-2、補問11-3のそれぞれについてお答えください。)

1 はい 2 いいえ

↓

補問11-2 医療機関を受診するように指導されましたか

1 はい 2 いいえ

↓

その後、医療機関に行きましたか。

1 行った 2 行かない

補問11-3 食事や生活習慣の改善の指導を受けましたか。(医療機関受診者を含む。)

1 はい 2 いいえ

↓

指導された内容についてどの程度実行していますか。

1 おおむね実行している 2 一部実行している 3 実行していない

CP-2.2

必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	指導された内容の実行率(肥満)	
把握したい概念	効果的な保健指導を受けた割合	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施	
指標概要	定義	自記式質問票(←平成13年国民生活基礎調査における補問11-3参照)において「はい」と回答した者
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該調査実施者
	分子	当該調査受診者のうち、質問紙調査により、「指導された内容をおおむね実行している」と回答した者
	分母のデータ源	同上
	分母	「CP-1.2 保健指導実施率(肥満)」における該当者(30~64歳男性・女性)
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	C. メタボリックシンドローム(MetS)
	指標種類	サービス提供実績(プロセス)
	目的	②分析用
	義務化(推奨される調査の頻度)	分析指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法	都道府県としての独自調査における把握	
留意事項 (上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	具体的成果として体重減少量の把握を検討	

※平成13年国民生活基礎調査(健康票)

補問11-1「あなたは健康診断の結果、糖尿病に関すること(「血糖値が高い」、「尿糖が陽性」、「糖尿病の疑いがある」など)をいわれましたか。(はいの方については、補問11-2、補問11-3のそれぞれについてお答えください。)

1 はい 2 いいえ

↓

補問11-2 医療機関を受診するように指導されましたか

1 はい 2 いいえ

↓

その後、医療機関に行きましたか。

1 行った 2 行かない

補問11-3 食事や生活習慣の改善の指導を受けましたか。(医療機関受診者を含む。)

1 はい 2 いいえ

↓

指導された内容についてどの程度実行していますか。

1 おおむね実行している 2 一部実行している 3 実行していない

CP-2.3
必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	指導された内容の実行率(糖尿病予備群)	
把握したい概念	効果的な保健指導を受けた割合	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施	
指標概要	定義	自記式質問票(←平成13年国民生活基礎調査における補問11-3参照)において「はい」と回答した者
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該調査実施者
	分子	当該調査受診者のうち、質問紙調査により、「指導された内容をおおむね実行している」と回答した者
	分母のデータ源	同上
	分母	「CP-1.3 保健指導実施率(糖尿病予備群)」における該当者(30～64歳男性・女性)
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	C. メタボリックシンドローム(MS)
	指標種類	サービス提供実績(プロセス)
	目的	②分析用
	義務化(推奨される調査の頻度)	必ず把握すべき概念に対する指標であり義務的公表指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法	都道府県としての独自調査における把握	
留意事項 (上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)		

※平成13年国民生活基礎調査(健康票)

補問11-1「あなたは健康診断の結果、糖尿病に関すること(「血糖値が高い」、「尿糖が陽性」、「糖尿病の疑いがある」などをいわれましたか。(はいの方については、補問11-2、補問11-3のそれぞれについてお答えください。)

1 はい 2 いいえ

↓

補問11-2 医療機関を受診するように指導されましたか

1 はい 2 いいえ

↓

その後、医療機関に行きましたか。

1 行った 2 行かない

補問11-3 食事や生活習慣の改善の指導を受けましたか。(医療機関受診者を含む。)

1 はい 2 いいえ

↓

指導された内容についてどの程度実行していますか。

1 おおむね実行している 2 一部実行している 3 実行していない

CP-2.4

必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	指導された内容の実行率(高血圧予備群)	
把握したい概念	効果的な保健指導を受けた割合	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施	
指標概要	定義	自記式質問票(←平成13年国民生活基礎調査における補問11-3参照)において「はい」と回答した者
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該調査実施者
	分子	当該調査受診者のうち、質問紙調査により、「指導された内容をおおむね実行している」と回答した者
	分母のデータ源	同上
	分母	「CP-1.4 保健指導実施率(高血圧予備群)」における該当者(30~64歳男性・女性)
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	C. メタボリックシンドローム(MetS)
	指標種類	サービス提供実績(プロセス)
	目的	②分析用
	義務化(推奨される調査の頻度)	分析指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法	都道府県としての独自調査における把握	
留意事項	(上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	

※平成13年国民生活基礎調査(健康票)

補問11-1「あなたは健康診断の結果、糖尿病に関すること(「血糖値が高い」、「尿糖が陽性」、「糖尿病の疑いがある」などをいわれましたか。(はいの方については、補問11-2、補問11-3のそれぞれについてお答えください。)

1 はい 2 いいえ

↓

補問11-2 医療機関を受診するように指導されましたか

1 はい 2 いいえ

↓

その後、医療機関に行きましたか。

1 行った 2 行かない

補問11-3 食事や生活習慣の改善の指導を受けましたか。(医療機関受診者を含む。)

1 はい 2 いいえ

↓

指導された内容についてどの程度実行していますか。

1 おおむね実行している 2 一部実行している 3 実行していない

指標名	指導された内容の実行率(高脂血症)	
把握したい概念	効果的な保健指導を受けた割合	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 頻度は各都道府県によるが1-5年間隔で実施	
指標概要	定義	自記式質問票(←平成13年国民生活基礎調査における補問11-3参照)において「はい」と回答した者
算出方法	分子のデータ源	県民健康・栄養調査における当該調査実施者
	分子	当該調査受診者のうち、質問紙調査により、「指導された内容をおおむね実行している」と回答した者
	分母のデータ源	同上
	分母	「CP-1.5 保健指導実施率(高脂血症)」における該当者(30~64歳男性・女性)
標準化	必要性	あり
	その方法	限定法(30-64歳男性・女性)
位置づけ	生活習慣病の発展段階	C. メタボリックシンドローム(MS)
	指標種類	サービス提供実績(プロセス)
	目的	②分析用
	義務化(推奨される調査の頻度)	分析指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法	都道府県としての独自調査における把握	
留意事項 (上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	具体的成果として体重減少量の把握を検討	

※平成13年国民生活基礎調査(健康票)

補問11-1「あなたは健康診断の結果、糖尿病に関すること(「血糖値が高い」、「尿糖が陽性」、「糖尿病の疑いがある」などをいわれましたか。(はいの方については、補問11-2、補問11-3のそれぞれについてお答えください。)

1 はい 2 いいえ

↓

補問11-2 医療機関を受診するように指導されましたか

1 はい 2 いいえ

↓

その後、医療機関に行きましたか。

1 行った 2 行かない

補問11-3 食事や生活習慣の改善の指導を受けましたか。(医療機関受診者を含む。)

1 はい 2 いいえ

↓

指導された内容についてどの程度実行していますか。

1 おおむね実行している 2 一部実行している 3 実行していない

DO-1.1/1.2

必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	DO-1.1 脳卒中による救急搬送率 DO-1.2 心疾患等による救急搬送率	
把握したい概念	MetS等の重症化・合併症発症率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 国民健康・栄養調査では毎年	
指標概要 定義	DO-1.1 急病にて救急搬送された患者のうち「脳疾患」に該当する者の人口あたり数 DO-2.2 急病にて救急搬送された患者のうち「心疾患等」に該当する者の人口あたり数	
算出方法	分子のデータ源	救急業務実施状況調
	分子	DO-1.1 23表 急病にかかる疾病分類別傷病程度別搬送人員調において「脳疾患」に該当する合計人数 DO-1.2 23表 急病にかかる疾病分類別傷病程度別搬送人員調において「心疾患等」に該当する合計人数
	分母のデータ源	国勢調査と人口動態からの推計人口
	分母	各年の10月1日推計人口(昼夜間人口比での調整必要)
標準化	必要性	あり
	その方法	数学モデル(計量経済学的モデル)を用いる???
位置づけ	生活習慣病の発展段階	D. 重症化・合併症(生活機能の低下・要介護状態)
	指標種類	最終的な成果(アウトカム)
	目的	②分析用
	義務化(推奨される調査の頻度)	分析指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法	—	
留意事項 (上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	救急車の利用には、疾病の発生だけではなく、地理的および社会的な因子が関連する。これらの因子を調整する必要がある。具体的には、影響を及ぼす因子を明らかにし、そのインパクトを測定する必要がある。この作業は、全国からデータを1箇所を集めて行うことになる。	

DO-1.3
必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	経皮的冠動脈形成術実施率	
把握したい概念	MetS等の重症化・合併症発症率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 毎年	
指標概要 定義	経皮的冠動脈形成術実施率	
算出方法	分子のデータ源	レセプト
	分子	レセプトに、虚血性心疾患の病名と経皮的冠動脈形成術実施の記載があるもの
	分母のデータ源	レセプト
	分母	レセプトに、虚血性心疾患の病名の記載があるもの
標準化	必要性	あり
	その方法	病態(重症度)による標準化
位置づけ	生活習慣病の発展段階	D. 重症化・合併症(生活機能の低下・要介護状態)
	指標種類	最終的な成果(アウトカム)
	目的	②分析用
	義務化(推奨される調査の頻度)	分析指標 少なくとも3年に1度
統計調査票の改定方法	-	
留意事項 (上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	疾病の重症度に関する情報がレセプトからは得られないため、指標の意味づけが曖昧になる恐れがある。	

DO-1.4

必ず把握したい概念に対する指標の詳細

指標名	脳卒中有病者	
把握したい概念	MetS等の重症化・合併症発症率	
現状との関連 (データ源となる調査の頻度)	①現状を踏まえた指標 3年に一度	
指標概要	定義	患者調査の総患者数における脳血管疾患患者の人口に対する割合
算出方法	分子のデータ源	患者調査
	分子	脳血管疾患の総患者数
	分母のデータ源	総務省推計
	分母	人口
標準化	必要性	必要
	その方法	間接法
位置づけ	生活習慣病の発展段階	D. 重症化・合併症(生活機能の低下・要介護状態)
	指標種類	最終的な成果(アウトカム)
	目的	②分析用
	義務化(推奨される調査の頻度)	分析用 毎年
留意事項	(上記指標の結果を分析する際に必要とされる指標)	